



『地球に暮らすぼくたちへ』

中川ひろたか／作 松田奈那子／絵 アリス館 2024

ここ地球という場所で、ぼくたちは生きています。みんな等しく生まれました。だから、等しく生きて良い権利をもっているのです。でも、世の中には、さまざまな人が暮らしていて思いもさまざまです。認め合わなければいけないのに、むずかしいときがあります。



『変身 消えた少女と昆虫標本』

佐藤いつ子／作 かない／絵 文研出版 2024

夏休みに萌子が、バスを途中下車した後行方不明になりました。家には名前の方から昆虫標本が残されていました。それをきっかけにして、萌子の友人たちが、それぞれの家族や周囲との関係にとまどいながらも、真実に向かっていきます。



『ラッキーボトル号の冒険』

クリス・ウォーメル／作・絵 柳井薫／訳 徳間書店 2024

家出した十歳の少年ジャックは、乗りこんだ船が嵐にあり、ある島に流れつきます。何年も島に住む、大男ロビンソンと、支えあいながら生活を続けますが、とんでもない脱出作戦を思いついた二人は、ラッキーボトル号に乗り込むと、大海原に飛び出しました。



『植物が世界をすくう!』

アナベル・セイヴァリー／文 チェイラン／絵 佐藤見果夢／やく 評論社 2024
植物は、地球上で酸素をつくりだし、自然界のバランスを保っています。様々な生物が食物としてだけでなく、住む場所としても植物を利用して生きています。わたしたちは、気候変動や環境汚染から地球を守るために、植物の大切な役割を学ぶことが大切です。



『北緯44度浩太の夏 ぼくらは戦争を知らなかった』

有島希音／作 ゆの／絵 岩崎書店 2024

北海道の西北、小平町。浩太は、海辺で出会った謎のおじさんに言われた「あんまり海にきてるとひっばられっぞ。」という言葉が頭から離れず、小平の海に伝わる出来事を調べ始めます。そこで、終戦直後の町で起きた悲しい事実を知るのです。



夏におすすめのブックリストをつくりました。
思い出の1冊に出会う旅に出発しませんか!

このブックリストは出版者の許可を得て表紙に掲載しています。

2025年7月

発行：宮崎県立図書館 児童図書室(こどもしつ)

電話：(0985) 29-2596



『ふしぎなつうがくろ』



花里真希／さく 石井聖岳／え 講談社 2024

一年生のひろとは、とうこうはんのしゅうごうばしょに、ひとりで行くことになりました。ある日、たいそうふくのはいったふくろをふりまわしていると、竹のさきにひっかかってしまいました。春、夏、秋、冬、つうがくろで体験するふしぎなおはなしです。



『びっくりせかいりょこう ちきゅうのちから』

小口高／監修 木下真一郎／イラスト ひさかたチャイルド 2024

ふじさん、なるとのうずしお、モン・サン・ミシエル、グランドキャニオン、イグアスのたきなど、ちきゅうにはおどろきのけしきがあります。この本は、それらをしょうかいしながら、どうしてできたか、どうしてそんなことがおきるのかというぎもんにこたえてくれます。



『なきむしせいとく 沖縄戦にまきこまれた少年の物語』

たじまゆきひこ／作 童心社 2022

1945年の沖縄。国民学校2年生のせいとくは、いつもないているのでみんなから「なちぶー」とよばれています。日本とアメリカの戦争が激しくなり、母と妹の3人でにげることになったのですが、せいとくたちをまっていたのは、アメリカ軍の激しい爆撃でした。



『あいたくてたまらない ももいろの貝とやどかりぼうやのお話』

おくやまゆか／さく 福音館書店 2024

おじいちゃんがくれたももいろの貝が、海にいるやどかりぼうやに あいたいと なきだしました。なつやすみに、そうたは、はまべで貝をはなしてあげますが、にわでないているやどかりぼうやをみつけてしまいます。およげないそうたでしたが、海にもぐるけっしんをしました。



『リリの思い出せないものがたり』

たかどのほうこ／作 高橋和枝／絵 ポプラ社 2024

小学2年生になったリリには、どうしても思い出せない記憶があります。とてもおもしろいもののような、ふしぎできれいな、いいものだったような気がします。ことしの夏、おばあちゃんのうちで、ともだちのフサ子さんの話をきいていたら、やっと思い出すことができました。



『まほうのマーマレード』

茂市 久美子／作 あかね書房 2024

亡くなったおばあさんが住んでいた家で暮らすことになった悠一さん。そこには樹齢100年以上の夏みかんの木と「まほうのマーマレード」のレシピがありました。そこで悠一さんはジャム作りを始めますが、街ではまったく売れません。落ち込む悠一さんの所へある依頼がきます。



『魔女がやってきた!』

マーガレット・マーヒー／作 尾崎愛子／訳 はたこうしろう／絵 徳間書店 2024

この本には、魔女が出てくる楽しいお話が5つまとめられています。みんな、人間っぽさのある魔女たちです。くいしんぼうだったり、ちゃっかりしたり、みえっぱりだったり、口は悪いけどやさしかったり、友だちになってもいいかなとも思いませんか。



『夏がいく』

伊多波碧／作、おとないちあき／絵 理論社 2024

旅籠の跡取り息子の優太と、侍の子の清吾は、同じ寺子屋で生徒でしたが、あまり口をきかない仲でした。ところが、うわさのゆうれいの正体をふたりであばいてからは、自分たちの将来の話をするような、絆が生まれていました。江戸のひと夏の成長物語です。



『こちら、沖縄美ら海水族館動物健康管理室。世界一の治療をチームで目指す』

岩貞るみこ／文 サタケシユンスケ／イラスト 講談社 2024

イルカに人工尾びれをつけるプロジェクトや保護したウミガメを海にもどすための取組みなど、沖縄美ら海水族館の動物健康管理室で働く職員と、飼育員が一緒になって取り組んだ仕事を7つ紹介しています。生き物の健康を守る人間と動物の繰り広げる感動の物語です。



『動物の義足やさん』

沢田俊子／文 講談社 2024

動物も、人間と同じように、ケガや病気で、体が不自由になることがあります。そんな動物たちのために、島田さんは、義足や装具を作り続けています。様々な動物の種類や、体の状態に合わせて、あきらめずに3万匹分もの装具を作った、島田さんの努力と情熱が伝わってくるお話です。